

はるが きた

一、はるが きた はるが きた
どこに きた
山に きた さとに きた
のにも きた

二、花が さく 花が さく
どこに さく
山に さく さとに さく
のにも さく

三、鳥が なく 鳥が なく
どこで なく
山で なく さとで なく
のでも なく

あかるい こえで のびのびと うたいましょう。

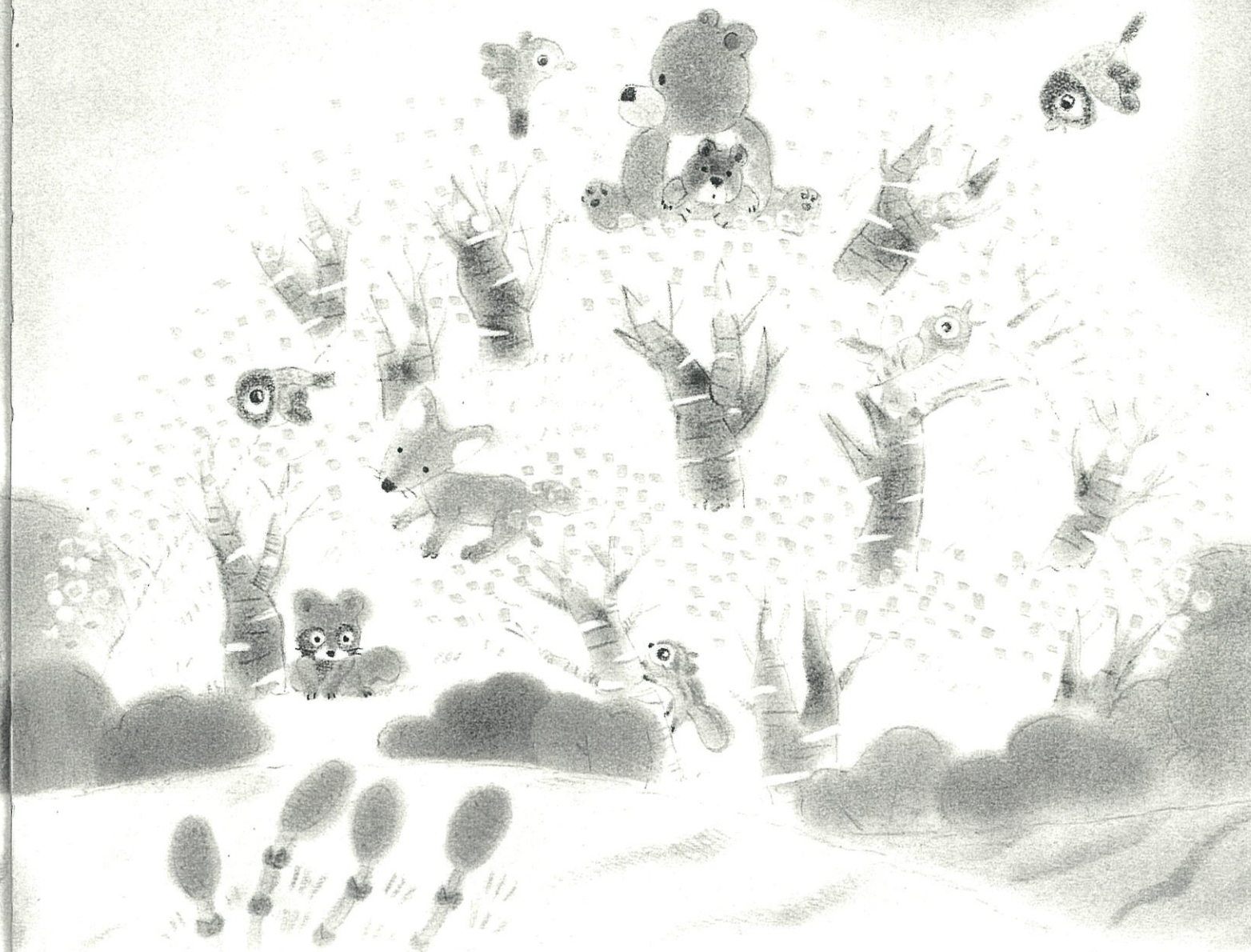
ソ ミソ ラ ソ ミソ ド ラ ソ ミ ド レ

♩=116~126 文部省唱歌／高野辰之 作詞／岡野貞一 作曲



1 は るがき た は るがき た ど こ に き た く
2 は ながさ く は ながさ く ど こ に き た く
3 と りがな く と りがな く ど こ に き た く

はるになると、日ざしも あたたかくなって、花が いっせいに さきはじめます。
そうした しぜんの ようすに、わたしたちも こころが うきうきして きますね。



「はるの まきば」(▶▶67ページ)と あわせて うたう ことも できます。

ソ ラソ ミ ソ ド レド ラ ド ソ ミ レ ソ ド



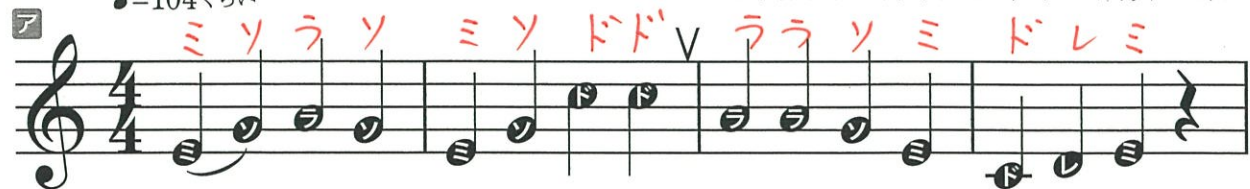
や まにき た さ とにき た の に も き た く
や まにさ く さ とにさ く の に も き た く
や まにな く さ とでな く の で も き た く



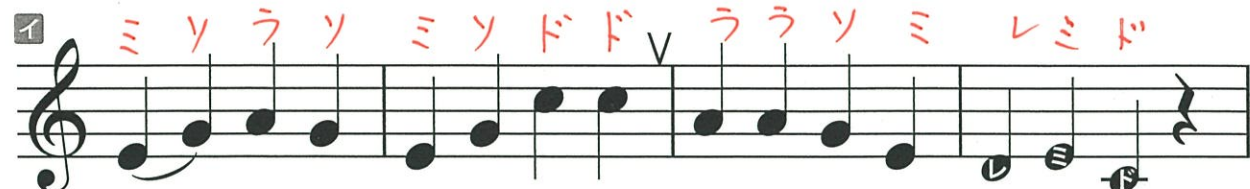
春の小川

もんぶしょうしゅうか たかの たつゆき おかの ていいち
文部省唱歌 高野辰之 作詞 岡野貞一 作曲 ☆

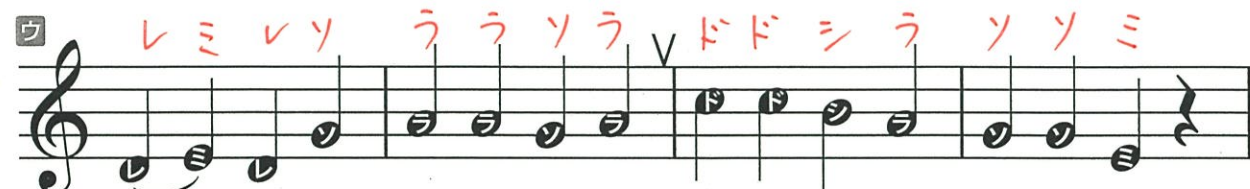
♩=104ぐらい



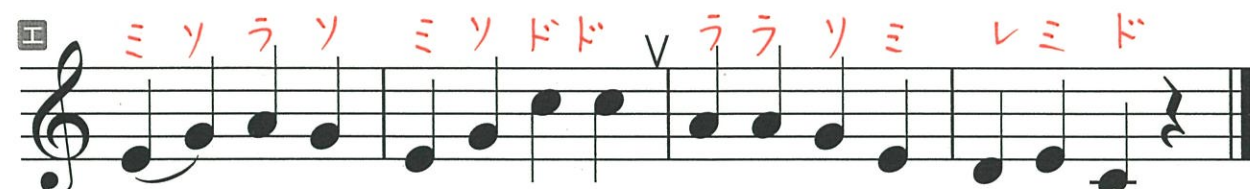
1 はーるの おがわは さらさら いくよ
2 はーるの おがわは さらさら いくよ



きーしの すみれや れんげの はなに
えーびや めだかや こぶなの むれに



すーがた やさしく いろうつ くしく
きょーう も いちにち ひなたで およぎ



さーけよ さけよと ささやき ながら
あーそべ あそべと ささやき ながら

V(ブレス) ...息つき



- この曲では、小川の流れる音を「さらさら」と表しているね。どんな感じて歌いたいか。
- ♪のせんりつをくらべて、にているせんりつを見つけたり、それぞれがつづく感じが、落ち着く感じかを、歌ってみて考えたりしよう。

二、春の小川は

さらさら行くよ
えびやめだかや
小ぶなのむれに
今日も一日
ひなたでおよぎ
あそべあそべと
ささやきながら

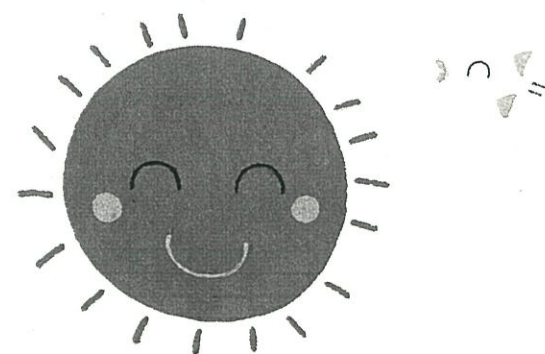
一、春の小川は

さらさら行くよ
岸のすみれや
れんげの花に
すがたやさしく
色うつくしく
さけよさけよと
ささやきながら



楽ふやドレミとなかよくなれるかな。

ドレミで歌ったり えんそうしたりしよう



キラキラおひさま

じゅう はや 自由な 速さで

ひょうが ゆう 日向 有 作詞・作曲

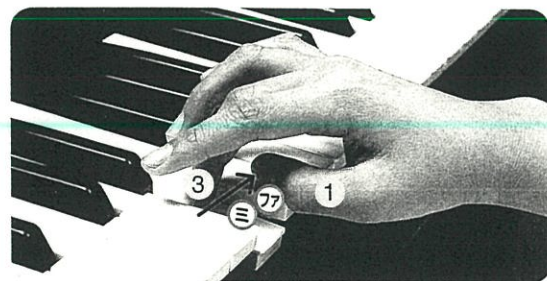
1 2 3 3 1 2 5 4 3 2 1 3 2 1

お ひ さ ま キラキララ おお き な え が お だ ね
ド レ ミ レ ミ レ ミ ソ ド シ ラ ソ ミ レ ド



楽ふを見ながらドレミで歌ってから、^{がっ}楽きてえんそうしよう。
りんしょうで歌っても楽しいよ。
(さいしょのグループが②にきたとき、^{つぎ}次のグループが^{はじ}め始めます。)

★ ゆび 指くぐり



ひいている指の下をくぐる

★ 指またぎ



ひいている指の上をまたぐ

音楽のもと

おんかい 音階 ちよう 調

楽ふのお話

楽ふに^{つか}使われている音ふや五線は、
音の長さや高さ^{あらわ}を表しているよ。



に^{ことば}言葉を書き入れよう。

音ふの長さは → で書こう。

ふ点
2分音ふ



ふ点
4分音ふ



ト音記号と
五線



小せつ
じゅう線
終止線



音ふや休ふ

音ふは、形や色で

音の長さ

を表しています。

音ふ	名前	長さ
○	ぜん 全音ふ	
♪	ふ点 2分音ふ	
♪	2分音ふ	
♪	ふ点 4分音ふ	
♪	4分音ふ	
♪	8分音ふ	

♪ は、♪ と ♪ を
たした長さです。

♪ は、♪ と ♪ を
たした長さです。

休ふ 名前

4分休ふ

8分休ふ

五線

五線は、^{か せん}音の高さ を表すために使われる五本の線です。
加線 を使って、さらに高い音やひくい音を表すこともできます。

だい 第五線 第四線 第三線 第二線 第一線

き 上 音記号

う え 上第一線

高い

ひくい

した 下第一線

ド レ ミ ファ ソ ラ シ ド

小せつ

楽ふはひょうしに合わせてくぎります。

小せつ

じゅう線 終止線



上の楽ふの
ドレミに合わせて
♪ や ♪ を書いて
みよう。

プレス

V

いき 息つき

茶つみ

♩=104ぐらい 文部省唱歌☆

1 な つ も ち か づ く は ち じ ゅ う は ち や
2 ひ よ り つ づ き の き ょ う こ の ご ろ を

の に も や ま に も わ か ば が し げ る
こ こ ろ の ど か に つ み つ つ う た う

あ れ に み え る は ち ゃ つ み じ ゃ な い か
つ め よ つ め つ め つ ま ね ば な ら ぬ

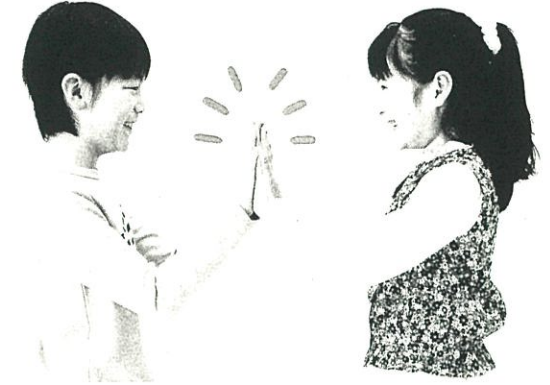
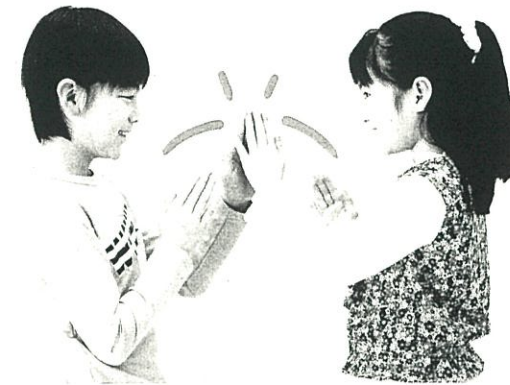
あ か ね だ す き に す げ の か さ
つ ま に や に ほ ん の ち ゃ に な ら ぬ

- 八十八夜 ▶ ^{リッしゅん}立春(2月4日ごろ)から88日めの日のこと、5月1日から2日ごろにあたり、春としよ夏のさかいめの日とされる
- 茶つみ ▶ 茶の葉をつみ取ること。またはつみ取る人
- あかねだすき ▶ そでをたくし上げるために、かたからわきにかけてむすぶ、赤色のひも(右ページ)
- すげのかさ ▶ かさすげという草の葉であんだ、頭にかぶるかさ(右ページ)
- ひより ▶ よい天気



- せんりつのリズムをだんごとにくらべて、同じところと、ちがうところを見つけよう。
- 手合わせをしながら、リズムにのって歌ってみよう。

手合わせのれい



のときは両手で打ってみてね。

新茶のお話

ちょうど八十八夜のころ、お茶畑には新しい葉が広がります。その葉をつんで、年のさいしょのお茶、「新茶」が作られます。「新茶」は、昔からかおりや味がよいと人々によろこばれ、大切にされてきました。この歌は「新茶」の茶つみの様子や、きせつのけしき、しゅうかくのよろこびを歌っています。

お茶の葉は、
このようにして
つみ取ります。

